

## 大切なのは「外観」よりも「耐久性」と「映り」

過剰品質を改めるため、コミーでは外観検査廃止に向けて製造体制、検査体制を改めていくことにした。

### 粉砕機で粉砕予定の「FF 外観不良品」を発見

2021年9月、社内のSS評価日で工場をSSの視点から評価したとき、工場1階にFFミラーが「外観不良」として捨てられそうになっていた。近くにいた社員にどの部分が外観不良にあたるのか聞いたが、分からなかった。確かに、外観検査は合否判定が難しいが、過剰な基準になっているのではないか？ これを機に外観検査を見直すことにした。

### ミラーの品質で大切なのは「耐久性」と「映り」

ところで、日経ビジネス21年12月号でトヨタが調達資材の「過剰品質」を改める活動をしている記事が掲載されていた。コミーも「過剰品質」に意識を向け、今の検査工程を改革しなければならないと感じた。

コミーの商品は、「使用現場で長期にわたってユーザーの役に立つこと」を目標としている。ミラーの品質には大きく「外観」「耐久性」「映り」の3つがあるが、多少の外観キズ等よりも、現場で長期にわたって役に立つことの方が大切である。従って、重要視しなければならないのは「外観」よりも「耐久性」と「映り」である。

そこで2022年4月、社内のFFミラー外観検査を数ヶ月以内に廃止することを宣言した。

### まずはFFミラーの外観検査を簡易化

FFミラーの外観検査そのものを廃止できないか。凸面ミラーは協力会社からコミーには合格品しか納入されないため、組立中にサッと見る検査（サッと検）のみで、そもそも受入検査はしていない。

.....

しかし、FF ミラーの製造は多工程あり、複数の協力会社を経て、最終工程の協力会社から支給品全数を合格、不合格に分けて納入してもらっている。今までは合格不合格に関わらず両方の受入検査を行ってきたが、まずは合格品については「サッと検」のみ実施し、不合格品だけ受入検査する仕組みに変更することにした。

### 「作業キズゼロ プロジェクト」を協力会社にも展開

過去、組立中に凸面ミラーにキズを見つけたことがあるが、社内ですいたキズか、協力会社ですいたキズか分からないという問題が発生したことがある。そのときに社内では絶対にキズをつけないようにするため「作業キズゼロ プロジェクト」を立ち上げた。これは新人を含めて組立に関わる従業員は、キズが発生する原因を説明できて、かつ、現場で実際にキズをつけて再現できる教育を実施するというもので、(『Komy Short Story vol.2』「作業キズゼロ物語 (p.20)」参照)これにより、社内作業では絶対にキズをつけない教育の仕組みを作った。

そして、コミー社内だけでなく FF ミラーを製造している協力会社にも同様に作業キズゼロを実現できる製造・検査体制を徹底するよう依頼をしている。

外観検査廃止に向けて、コミーと協力会社で不良を出さない製造体制、万が一不良を出しても後工程に流失させない検査体制、作業者等が変わっても同じ商品ができる教育体制をつくり上げたい。